

プレスリリース

2013年10月24日
国境なき医師団 (MSF)

WHO「世界結核報告書2013」の発表を受けて

世界保健機関 (WHO) は 10 月 23 日、世界の結核の現状を取り上げた「世界結核報告書 2013」を発表した。この報告書は、結核の診断を受けた人の率や的確な診断技術の普及状況、治療成功例と未達状況、新規感染者と死者に関する統計、財源と研究開発面における需要と供給の差、そして高まん延国とこの疾患への対応などが記されている。これを受け、国境なき医師団 (MSF) は、以下のとおり見解を発表、各国政府、資金拠出者、WHO に対し、財源を確保して結核対策に取り組むよう求めている。

「薬剤耐性結核 (DR-TB) の診断・治療の向上および拡大が世界規模でうまくいっていないことの代償として、多くの命が失われています。悪化を続ける DR-TB の危機によって、防げたはずの苦しみと死が恐るべき規模で起きている中、各国政府、資金拠出者、WHO には、政治的な力を動かして約 15 億ドルとされる財源を確保し、この致命的な病気に正面から取り組むことが求められています。

MSF は結核治療を行っている多くの国で、驚くべき数の DR-TB 症例を目にしています。診断技術の進歩によって検査結果が出るまでの所要時間が 2 か月から 2 時間になったことが大きいのです。よりよい診断機器のおかげで 2012 年に世界で DR-TB と診断された症例が 2011 年の倍近くになったことは大きな一歩ですが、DR-TB 感染者 4 人のうち 3 人がまだ正確な診断を受けられず、診断された人のうち 1 万 7000 人が治療を始めていないことから、この病気に対して本当の意味で前進したとするには程遠いと言えます。

ここで必要なのは 2 本立てのアプローチです。1 つ目は、苦痛に満ち、毒性が強く、治療をためらうほど高額な 2 年に及ぶ DR-TB 治療の試練を、短期間で、苦痛の少ない、より安価な方法に変えるような治療法の刷新です。そして 2 つ目は、世界最大の結核対策資金拠出者である『世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (世界基金) 』に必要額を全額拠出すること、DR-TB 診断と治療の充実・拡大を行う国々を早急に支援することです。そうすれば、今日にも多くの命が助かり、この病気の拡大に歯止めをかけることができるのです」。

グラニア・ブリグデン

国境なき医師団 必須医薬品キャンペーンにおける結核アドバイザー、医師

MSF は 25 年にわたって結核治療に従事してきた。多剤耐性結核 (MDR-TB) の治療開始は

1999 年で、以後、MSF は NGO として世界最大の MDR-TB 治療の担い手の 1 つとなっている。
2012 年は 2 万 9000 人の患者が MSF のもとで第一選択薬による結核治療を 30 カ国で受け、
1780 人の患者が 18 カ国で薬剤耐性結核の治療を受けた。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平（たち・しゅんぺい）

TEL：03-5286-6141 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>